

With コロナとIPP

日本包装管理士会

会長 山田 孝志

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会会長の山田孝志です。コロナ禍でのお正月を今年も迎えることになりました。自宅でゆっくり過ごされた方も多かったのではないかと思います。前年は控えていた実家への帰省やちょっと遠出を楽しんだ人もいたのではないのでしょうか。

コロナワクチンの接種者が7割を超え、国内の新規発症者も減少して安定していることから、外出に対する安心感が少し出てきたと思います。不要不急の外出は控えるにしても、今まで我慢していた都心での買い物やレストランでの飲食、イベントに出向く人が増え、通勤通学の電車や繁華街の人混みもコロナ禍で「巣ごもり」していた時に比較して確実に増えているように見受けられます。そのように経済の復活の兆しは世界的な動きのようで、昨秋から原油高になり、その影響で様々な物の価格が上昇してきています。

包装業界もeコマースの需要拡大で包装資材の需要は増加していますが、SDGsの普及から環境問題に配慮する動きが活発化して、脱プラスチックから紙製の容器や包材の開発・販売が活発化しています。一方、コロナ禍で衛生面が課題となり、プラスチック製の使い捨て容器や包装材が見直されていますが、再生プラスチックの利用も進んでいます。

今年の日本経済にも明るさが垣間見えるように思いますが、年末から世界的に流行しつつあるオミクロン株の感染力や発症後の病態がどの程度になるかによっては、再び巣ごもりに戻ってしまう可能性も否定できません。

☆

After COVID-19では、以前と変わった生活習慣や行動形態は元には戻らず、それに伴って消費者の必需品が変わり、購買志向が変わると言われています。次々と変異を繰り返して一向に収まらないコロナ禍では、with コロナの時代に移っていくのでしょうか。人で混雑するところではマスクをすることやフィジカルディスタンスをとり、3密を避けることはマナーの一つとなっています。「非接触」は、リアルのお金を使わない支払い方法や飲食店での端末機による注文方式、店舗でのセルフレジ化で見るように人同士の接触も避ける傾向が見られます。

日本包装管理士会は、WEB会議システムを導入したことを利用して、全国レベルで包装管理士の歓迎セミナーを実施しました。ippニュースも通年紙ベースの発行でしたが、夏の発行分は電子データで配信しています。包装業界の10大ニュース選定委員もeメールとWEB会議の利用で東京近郊以外の会員も参加して行うことができるようになりました。

これからもIPPのニューノーマルの実現に向けて、従来型の活動方法に固執せず、時代に合わせて新しい方法を模索して進化して行きたいと思います。そのためには、会員皆様のご理解とご協力が、ぜひとも必要になりますので、よろしくお願いします。本年も皆さんと皆さんのご家族のご健康と、皆さんの会社のますますの発展を祈念して、新年のご挨拶と致します。

《INDEX》

日本包装管理士会 会長挨拶	1
日本包装管理士会選定 2021包装界・10大ニュース	2
本部だより	3
支部だより	4

PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす日本包装管理士会 会報
No.132ipp
newsipp news
2022年1月25日発行
編集人/道明 誠
発行/日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

日本包装管理士会選定 「2021年包装界・10大ニュース」

1.ハイバリア性紙製包材開発を強化、環境負荷低減に一役貢献

大手印刷会社のD社やT社はフィルムパッケージと同等レベルのバリア性がある紙製のパッケージを開発した。各社ともハイバリア性紙製包材の開発競争を進めており、再生可能資源である紙を使用し、フィルムパッケージと比較してプラスチック使用量を削減するのはもちろん、従来の紙バリア品が抱えていた“遮光性”や“中身を見せたい”課題にも対応するなど、機能性を向上させた商品もある。

2.コロナ禍での通販市場拡大と通販梱包箱に易開封機能付与の流れ

コロナ禍でのネット通販増加に伴い、大手通販会社では消費者が安全で簡単に開梱できるような配慮の展開が始まった。段ボール箱の側面封緘テープ終端部位置に付設した切り込みを押し込み、引き上げた後テープの浮きをつまんでそのまま剥がす事例や、外装箱の側面に切り込みを入れて手が入るスペースを設け、苦勞せず簡単に内容品を取り出せるなど易開封についての提案がなされている。

3.プラスチック資源循環促進法成立、2022年に施行。資源循環の動きが加速。

2021年6月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が成立。また同法律の政省令・告示が2021年度中に公布され、2022年4月1日に施行される予定。同法ではプラスチック製品製造業者に対しては環境に配慮した製品設計や自主回収・再資源化、また飲食店等に対しては使い捨てスプーン等の提供に関し、廃棄物抑制等が求められており、それぞれの取組みを実行する際の判断基準や仕組みが設けられている。同法の施行に従い日本でも資源循環の動きが加速することになる。

4.原油価格高騰による原料高騰、包装資材価格に影響

ワクチン接種や自粛生活で新型コロナウイルスの感染者が減少し、経済の復旧が検討される中、原油の高騰を受け石油化学製品の基礎原料ナフサの高騰が続く、食品、ガソリン、電気、ガスに続いて、包装資材に幅広く使用される汎用合成樹脂も値上げが相次いだ。これに伴い包装資材の価格も値上げ表明が続く。メーカー各社は7月からPE、PPを5～8%程度、PSは10%超引き上げている。その他に印刷用紙なども値上げとなった。

5.SDGsの認知度が急速に高まる。

コンサルティング会社のB社は有力企業210社を対象にSDGsの認知度調査を実施。「詳細な内容を知っている」と答えた人は5.9%、「ある程度の内容は知っている」は30.5%。2020年の調査結果と比べると大幅に増えており、「知らない」は半分以上に減っている。SDGs企業評価では自動車業界の取組みが最も高く評価されているが、食品業界や小売り・流通関連の企業も上位にランクイン。他に包装材料メーカーが「作る責任、使う責任」としてリユース・リサイクルに取り組む報道も発出されている。

6.抗菌・抗ウイルス製品の販売増加

新型コロナウイルス感染防止のため、インキや表面加工メーカー、包装メーカー各社が次々と抗菌・抗ウ

イルス加工を施した製品を開発・販売を始めた。製品の表面に付着した菌の増殖を抑制することができる抗菌加工や製品の表面に付着したウイルスを減少させることができる抗ウイルス加工が、衣料などの繊維製品、プラスチックなどの樹脂製品、金属製品、紙製品などに広く用いられ、国内の抗ウイルス素材市場で2021年は2019年比2倍に近い172億円が予測されている。

7.プラスチックリサイクル原料の採用事例拡大へ

全国清涼飲料連合会は2030年までに使用済PETボトルの「ボトルtoボトル」比率50%を目指すことを発表。ある食品メーカーでは、油分を含むドレッシング用容器にもメカニカルリサイクルしたPET原料が採用され動向が注目される。さらに、トイレタリーメーカーでは、プラスチック包装容器資源循環型社会の実現に向けて販売店が連携し、洗剤やシャンプーなどの使用済詰め替えパックの分別回収実験を実施。店頭回収したフィルム容器はメーカー内のパイロットプラントで再生処理を行う。

8.学校給食にストローレス牛乳紙パック採用拡大で脱プラ加速

大手製紙会社N社が製造・販売を開始したストローレス学乳容器の採用が相次いでいる。「脱ストローによる環境問題への貢献」と「学校での環境教育の実践材料となりうること」が評価されている。日本全国の紙容器学校給食牛乳の消費量は年間約14億パック、ストロー1本の重量を0.5gとすると、約700t/年の樹脂が使用されている。

同商品は屋根型の下部の作りを工夫し、指を入れやすく簡単に開封できて、独自の罫線を入れることにより注出口の傾斜を調整、スムーズに飲めるようにした。本商品は2021年の日本パッケージングコンテストで経済産業省製造産業局長賞を受賞した。

9.フルオープン缶で自然発泡する缶ビール

缶の蓋をあけると泡が自然に湧き出し、生ジョッキ感覚でゴクゴク飲む缶ビールが、大手ビールメーカーより発売された。フルオープン缶で、胴内の特殊塗料により自然発泡を実現。飲料缶初のダブルセーフティ加工（口切れ防止）を採用し、日本初の生ジョッキ缶となった。コロナ禍の家飲み需要を見据え4月発売、数量限定で出荷するたびに数日で完売する状態が続いた。本商品は2021日本パッケージングコンテストで公益社団法人日本包装技術協会会長賞を受賞した。

10.コロナ禍でTOKYO PACK 2021、暮らしの包装商品展2021、初の同年開催

TOKYO PACK 2021は「未来（あす）を拓く 包みのテクノロジー」をテーマに、2月24日（水）～26日（金）に東京ビッグサイト西館と南館を使用して開催された。コロナ禍におけるリアル開催で海外からの参加がほとんどなく、来場者も人数制限するなど厳格な感染対策をとるなどはじめての事ばかりであった。また同年10月21日（木）～22日（金）には暮らしの包装商品展2021が開催された。TOKYO PACK会場となる東京ビッグサイトが東京オリンピック・パラリンピックの報道センターとして使用のため、開催を6ヶ月遅らせたことにより、TOKYO PACKと暮らしの包装商品展が初の同年開催となった。

◆56期包装管理士歓迎セミナーを開催しました。

IPP本部では、初の試みとして2021年11月10日（水）13:30よりZoomを用いたリモート形式による56期包装管理士歓迎セミナーを行いました。会に先立ち日本包装管理士会会長 山田孝志よりお祝いの挨拶を述べました。

第56期包装管理士講座合格者の皆様へ

日本包装管理士会長の山田孝志です。包装管理士講座は35期です。

まずは、包装管理士講座の合格そして包装管理士資格の取得、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

新型コロナ禍、講座の受講もWEBによる講習が主で、1人全集中で、仕事しながら毎日続けるのは大変だったのではないかと推察します。

しかしながら皆様は、この講座を通じて包装に関する知識を広め、あらゆる分野に於いて有意義な情報を得ることが出来たことと推察致します。リアル会議は今後も少なくなると示唆されますが、このようなWEBを利用して、遠隔地の会員ともライブで意見交換はできます。更に、包装管理士に合格された今、多くの仲間を作る絶好のチャンスを掴んだのではないかと考えております。

この包装管理士講座は、56年の歴史があります。そして包装管理士会も50年以上の永い年月を経て培われた縦横無尽なネットワークがあります。このネットワークを活用され、資格を最大限に生かして包装管理士の実感を堪能して頂きたいと存じます。

また、全国の各支部主催で、一年を通じて包装管理士の為の「セミナー」、「定例研究会」やコロナ禍で休止していた「工場見学会」など多岐に亘るイベントが計画・実施されています。

そして、インターネットが普及して情報が簡単に手軽に収集できるようになりましたが、いざ、自分の専門外のことで相談しようとする人がいないことに気づくことがあります。異業種の交流の場として、日本包装管理士会に所属して、交流を深めると、人の繋がりから答えが出るかもしれません。

そのためにも、先輩や社内の誰かが会員にいますという消極的な考えで入会を避けるのではなく、各個人それぞれが独自に包装管理士会に所属して、積極的に包装管理士としての研鑽と管理士どうしの交流を深めて行かれることを期待します。

本日の歓迎セミナーは、今年の2月に行われた東京パック展に仕事や遠いということで参加できなかった新会員向けに準備しましたので、最後まで聴講してみてください。そして疑問がありましたらプレゼン後に質問してください。

最後に、皆様の益々のご活躍と会社の発展を願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

会長挨拶の後、さっそくセミナーを開始しました。

◆「エコフレンドリーな包みのテクノロジー」

講師は日本包装管理士会

本部理事の荒井拓也（写真右）

未来を拓く東京パックセミナーで行なった講演を再現しました。（約45分）

◆「TOKYO PACK 2021」視察報告

講師は日本包装管理士会

副会長の古平 篤（写真左）

2021年2月にコロナ禍で開催された東京パックの情報をお伝えしました。（約50分）

昨年（2020年）はリモートセミナーの準備ができず、55期の皆様には心苦しく思います。本セミナーは56期 新包装管理士と日本包装管理士会 会員登録済みの55期包装管理士の皆様を「歓迎セミナー」にご招待させていただきました。そして68名の方にご聴講いただきました。ありがとうございました。



セミナー発信会場
アットビジネスセンター
池袋駅前別館にて

北海道支部だより

北海道支部長 會田 慶太（47期）

新年あけましておめでとうございます。

管理士会会員の皆様におかれましては如何お過ごしだったでしょうか。

2021年を振り返ると、やはり新型コロナウイルスの事が主になってしまいます。北海道支部の活動においては、例年実施しておりましたJPI共催の包装懇話会、新春研究会、合同親睦会と相次ぎ中止とせざるを得ない状況で、事実上活動が出来ない年となり、包装管理士会の活動のみならず、企業活動そのものが凍結してしまった年だったのではないのでしょうか。

2021年の北海道については、前年を超える大変厳しい年となりました。長く北海道経済を支えたインバウンド需要も皆無となり、観光業界のみならず、ホテル業界でも、インバウンドを見込み新たに建設したホテルもオープンが出来ない状況が続いております。人が動けない事で、菓子業界飲食業界への影響も甚大で、そこに関わる全ての業界が耐え忍んだ年となりました。

更に、水産物、農産物の状況も異常気象の影響を受け、厳しい年となりました。

水産物については、秋の味覚「サンマ」「秋サケ」が依然回復せず、代わりに「ブリ」「マグロ」の漁獲が伸びました。道内の水産加工の現場では、「サンマ」「秋サケ」の加工を主としており、魚種の変化にすぐに対応する事は難しく、諸手を挙げて喜べる状況ではございませんでした。

農産物についても、過去にない異常な干ばつで被害が発生しました。“100年に一度”とされる少雨と高温が続く記録的な渇水で、タマネギの変形、飼料作物の収量大幅減、農作物が枯れるなど災害と言っても過言ではない状況となりました。

と、悪い事ばかりに目が行きますが、嬉しい事もありました。何と言っても、日本ハムファイターズの新庄ビッグボスの誕生ではないのでしょうか？賛否両論がありますが、冷え込んだ北海道経済に大きな効果をもたらすことは間違いありません。一説によると、その効果は60億円とも言われております。また、日本ハム出身のリアル二刀流大谷選手の活躍も北海道に明るい話題を提供してくれました。いつの日か再び日本ハムのユニフォームを着て・・・。

だらだらと書いてしまいましたが、最後に2022年を「アフターコロナ2022」となる様、そして会員皆様のご健勝を祈念して締めさせていただきます。

東北支部だより

東北支部副支部長 斎藤 昇（13期）

支部行事が従来のような対面行事がコロナ感染防止の為、2020（R2）1月16日の東北包装界新年名刺交換会開催以降、行事開催しておりませんでした、21ヶ月ぶりに56期包装管理士合格者による包装技術研究発表会と懇親会を対面での開催をしましたのでその内容を報告致します。

期日はR3年11月5日（金）

場所は仙台市内 江陽グランドホテル

3密厳守の為、全員マスク着用、座席指定、出来るだけ移動禁止等感染防止図っての開催となりました。総司会会はJPI本部園山事務局長（R2年5月JPI東北事務局員が退職、現在本部事務局が東北支部事務局を代行している為）



発表者、運営委員、参加者の集合写真

コーディネーターはIPP東北鈴木支部長

開会挨拶をJPI東北山田運営委員長が行い開会し、発表者とテーマは以下の通り

「生分解性マルチを使用する農作業省力化」

（株）高速 櫻田晃氏

「段ボールの包材変更による環境配慮の向上」

レンゴー（株）吉田裕哉氏

「有線放送受信機梱包の輸送効率改善」

ダイナパック（株）加藤布由希氏

「物流プロセスを含めたトータルな包装形態の提案と試験条件の違いによる副作用有無の予測」

（株）リコー 松元信太郎氏

「レトルト食品用段ボールの包装改善」

レンゴー（株）高橋秀知氏

以上の発表後鈴木コーディネーターより講評があり、JPI東北山田運営委員長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。1時間程度歓談したり名刺交換したりして終了しました。



開会挨拶
JPI東北 山田運営委員長



発表会後講評する
鈴木IPP東北支部長



発表者 (株) 高速 櫻田晃氏



発表者 レンゴー (株) 吉田裕哉氏



発表者 ダイナパック (株) 加藤布由希氏



発表者 (株) リコー 松元信太郎氏



発表者 レンゴー (株) 高橋秀知氏



懇親会で乾杯の音頭をとる山田運営委員長

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 上橋 健一（29期）

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。今年度もコロナ感染症で活動が制限される厳しい状況が続いていますが、JPI西日本支部殿と連携しながら、会員の皆様への企画を検討しています。

◆第56期包装管理士合格者

当支部では28名の包装管理士が誕生しました。コロナ感染症対策により、残念ながら今期も合格証書授与式、懇親・交流会を中止しました。

◆第55期、第56期 包装管理士合格者発表会（オンライン形式）

JPI西日本支部との共催事業で、包装管理士合格者を対象とした発表会を開催しました。今回は第56期に加えて、昨年、発表の場を設けることができなかった第55期の合格者にもご参加いただき、選抜した5名の方々に、ご自身の改善テーマを発表していただきました。合格者の皆様におかれましては、今後の活躍を期待しています。

日程・発表者・発表テーマ：

【第1回】2021年11月25日（木）11：00～12：00

・レンゴー株式会社

鳥栖工場大分営業所 池田雄輝様

「ぼん酢360ml×12 段ボールケース開封性向上形態の開発」

・レンゴー株式会社

鳥栖工場大分営業所 緒方翔平様

「ねぎ用段ボールにおけるノンステープルロック機能の向上」



はじめに

流通・小売業界では品出し・陳列・売り場づくり作業に非常に多くの時間が割かれているのが実態であり、また品出し・陳列・売り場づくり作業時における労働災害が増加傾向にある。

流通・小売業界では、いかに限られた人数かつ限られた時間で、効率的な品出し・陳列作業を行えるかが課題となっている。

増加する労働災害

小売店での活動作業割合

レンゴー株式会社

【第2回】2021年11月25日（木）13：30～14：30

・TOTO株式会社

機器水栓開発3部機器水栓生産設計二グループ
三浦将平様

「作業性向上・包装材削減を図る包装改善」

・TOTO株式会社

機器水栓開発3部機器水栓生産設計二グループ
首藤真吾様

「パルプモールドから段ボール仕切りへの包装改善」



【第3回】2021年12月8日（水）13：30～14：15

・久光製薬(株)

生産技術開発部 包装技術課 課長 富澤之貴様

「医薬品の薬袋、ケース、段ボールのコンパクト化」



◆今後の活動予定

セミナー（オンライン形式）

・日程：2022年2～3月（2回程度）

中部支部だより

中部支部長 岡部 智（27期）

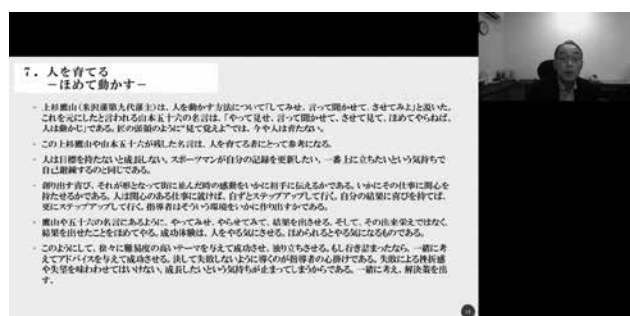
2021年度も、昨年来のコロナ禍の状況下での事業運営を余儀なくされており、IPP中部支部でも総会や会員交流会、賀詞交歓会等のいわゆる「3密」リスクの避けられない事業は、大変遺憾ながら開催見送りの判断を下さざるを得ない状況が続いております。IPP中部支部では今年度もJPI中部支部と連携し、会員各位への情報提供や研修フォローとなる研究例会の開催について、感染予防に最大限の配慮を尽くしながら、オンライン形式で実施しております。

【10月度JPIWEBフォーラム】

従来、IPP中部支部がJPI中部支部と共催で実施し

ていた「包装資材研究例会」・「輸送包装研究例会」・「生活者包装研究例会」・「包装技術研究例会」の4つの研究例会について、今年度は「JPIWEBフォーラム」と題したJPI全支部共同のオンライン事業として、「コクリポ（Cocriipo）」を用いたコクリポウェビナー（最大定員300名）で実施しており、JPI中部支部で企画・運営を担当するウェビナーについては、引き続きIPP中部支部との共催事業として開催しております。

10月5日（火）の「JPIWEBフォーラム」では、(株)高木包装の細田基則氏より、『包装技術者の育成について』と題して、物事の始まりは“挨拶”にある、育てる相手として“関心のある人”を選ぶ、人を育てるコツは“褒めて動かす”こと、といった内容を中心に、長年多くの若手技術者を教育ててこられた自身の経験を基にした知識や信念、実際の体験談などをお話いただきました。



10/5 JPIWEBフォーラムの様子

続く10月14日（木）の「JPIWEBフォーラム」では、サッポログループ物流(株)の丸山武史氏より、『ビール4社によるビールパレット（Pパレ）共同回収施策の全国展開—物流分野を協調領域と位置付けた協同取り組み事例』と題したご講演をいただき、酒類・飲料業界の輸送や保管に広く利用されている「Pパレ」について、従来の「共同使用・各自回収」の運用から、さらに一歩踏み込んで「共同回収」の施策を全国展開した事例を中心に、持続可能な物流を実現するための様々な取り組み事例についてご紹介いただきました。

Pパレ共同使用会とは

一般社団法人
Pパレ共同使用会

2021年8月現在、126社が加盟

Pパレ共同使用会では、加盟社のビール9型プラスチックパレット（略称：Pパレ）の適切な管理と、Pパレの共同利用促進に向けて取り組んでまいりました。しかしながら、Pパレの未回収・流出は継続的に発生し、近年増加傾向となっています。2012年以降では約33万枚の未回収・流出が発生しました。そこで、2013年3月に一般社団法人Pパレ共同使用会」を設立し、組織の強化を図るとともに、社会的な信頼も高めるよう活動しています。

◆事業内容：

1. 会員からのPパレの維持管理業務の受託
2. Pパレの共同利用に関する準則の策定及び整備
3. 会員によるPパレ投入実績の把握及び投入枚数の決定
4. Pパレの利用状況の把握
5. Pパレの不正利用からの回収
6. Pパレの適正な利用を図るための啓発活動
7. 物流合理化のための情報の収集及び研修会の実施

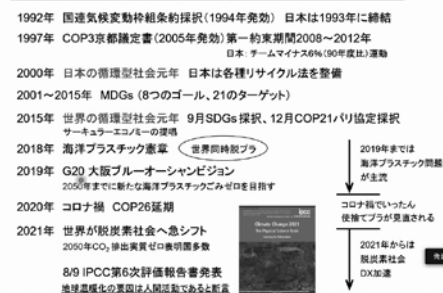
Source: IPPP共同使用会（2021年10月現在）

10/14 JPIWEBフォーラムの様子

【2021年度包装技術講習会】

11月10日（水）には、「Zoomウェビナー」を利用したオンライン開催で「包装技術講習会」を実施しました。最初にフタムラ化学(株)の花市岳氏が登壇し、『環境対応包装の現状2021～待ったなし！脱炭素トレンドにどう向き合えばいいのか～』と題して、海洋プラスチック問題に端を発する脱プラの流れからコロナ禍の特殊情勢へと移行し、さらに急激に脱炭素社会へとトレンドがシフトしてきた産業界全体の世界的な動向について、今後の展望も含めて解説をいただきました。2件目には、王子インターパック(株)の物部公二氏と清水建設(株)の宇野昌利氏より、『紙素材を建設資材へ活用してSDGsの実現と生産性向上—「KAMIWAZA®」の開発と実用化』と題して、高強度化・高機能化が進んだ紙素材を建築現場で活用することによって、生産性向上や環境保全、SDGsへの寄与を実現した取り組みの実例についてご紹介いただきました。

環境問題関連の激動の流れ(近年の動向)



532

4.なぜ紙素材か

■ 紙素材に着目した背景

- 作業員の高齢化・女性作業員の増加
⇒ 体力的なハンディへの配慮が重要
- 紙素材の高機能化（強度・耐火性・耐水性）
⇒ 建設資材（仮設）への適用可能性の高まり
- SDGsに対する配慮も重要
⇒ リサイクル可能（12つくる責任つかう責任）

11/10 包装技術講習会の様子

関西支部だより ●●●

関西支部 細田 基則（13期）

2021年は6月16日支部定時総会を開催して事業をスタートさせ、7月26日に関西支部＆W会共催「第12回合同研究会」を開催しましたが、その後新型コロナウイルス感染症の第5波来襲の影響で事業開催を自粛するという事態に陥りました。12月17日に見学会＆セミナーを山九（株）西神戸物流センターで開催しましたがその報告は次号でさせていただきます。

◆ 第12回W会との合同研究会 7月26日

〔W会：女性だけの包装研究会〕

「サステナブルライフ “SDGsと生活者の環境意識”」

講師：凸版印刷（株）関西TIC本部

クリエイティブ部長 秦弘信氏



凸版印刷（株）秦講師



会場参加の皆様

「改正食品衛生法 “食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度について”」

講師：三笠産業（株）

営業・開発本部営業支援部長 遠藤明子氏



三笠産業（株）遠藤講師



講演風景

◆ 会員の活躍紹介

包装管理士（36期）・包装専士セツカートン（株）伊丹工場包装開発課長 木野元朝幸氏

ー「暖段はこベッド・まじきり」を通じての社会貢献の取り組みー

私たちセツカートン（株）は段ボールシート・ケースを製造販売しており、全国直営14工場、国内関連8社、海外ではベトナム・ホーチミン市に関連会社があります。

今回は段ボール製「暖段はこベッド」や「暖段まじきり」を通じての社会貢献活動について紹介させていただきます。

コロナ禍により私たちの生活や安全、経済が大きな影響を受けております。その様な中で、さらに水害や地震などによる災害が発生した場合、避難されて助かる命がクラスター発生により危険に陥る可能性があります。

ツイッター 日本包装管理士会

検索



つつむ君

つつむ君が
ツイッターで
情報発信をしています

その様な危険を回避するため、2020年5月より段ボール製パーティション「暖段まじきり」をJパックス(株) (大阪府八尾市) と共同開発し、避難所での備蓄用として供給しております。「暖段まじきり」は後述する「暖段はこベッド」とともに、各メディアで取り上げられ、避難所での必需品となっています。



暖段はこベッド・まじきり



熊本県人吉市の避難所

東日本大震災後、Jパックスとともに全国の自治体と防災協定を結び、災害時に段ボール製「暖段はこベッド」が避難所に迅速に届けられる様に取り組んでおります。

防災協定を通じて被災地に段ボール製ベッドを供給する動きは段ボール業界団体でも取り上げられ、業界規格の段ボールベッドも開発されました。セッツカートンもJパックスとともに段ボールベッドワーキンググループに参加しました。Jパックスとセッツカートンの取り組みが業界全体への動きになり、より広く多くの地域に供給できるようになりました。

コロナ禍の中、セッツカートンの海外関連会社があるベトナムではコロナウイルス感染拡大防止のため、ロックダウンが実施され、生産活動を継続するため従業員の職場生活が行われました。セッツカートンベトナムも「暖段はこベッド」を赤十字社や各企業に供給

し、職場内の従業員の生活や企業活動を支えました。日本発祥の段ボールベッドは海外でも活用されています。セッツカートンベトナムの活動は、ホーチミン市人民委員会と赤十字社のセレモニーで表彰を受けました。



ベトナムでの職場生活

北海道では「暖段はこベッド・まじきり」のコンテナ備蓄や運送会社との協定により、災害時には48時間以内に供給できる体制が進められています。

また、コロナワクチン接種会場などで使用する「暖段まちあい」の供給もJパックスとともに開始しました。



暖段まちあい

日本包装技術協会メンバーの会社でも、飛沫感染防止パーティション「テーブルマスク」[(株)昭和丸筒]、「360° Web会議カメラ」[(株)ザクティ] などコロナに対応した商品を供給しています。IPPメンバーの方々とともコラボ・協力し、災害時やコロナ禍の中で必要な製品を必要な場所に供給することにより、今後も社会に貢献できる様に取り組んで参ります。



関東支部だより ●●●

第16回楽しい写真展をリアルで開催

写真研究会会長 荒牧 哲（23期）

新型コロナの東京の新規感染者数が30人以下を続ける中、2021年11月26日（金）～29日（月）に横浜山手234番館ギャラリーで写真展を開き、A3サイズの作品24点を展示しました。

寒いものの好天に恵まれ紅葉が進む中、4日間計で351人の来場者がありました。

前回2019年7月の真夏の6日間が369人、前々回2018年10月のベストシーズン6日間が960人の来場者でしたので、コロナを考慮すれば、今回はまずまずの入場者数と云えます。

2年4ヶ月の間をあけての開催となり、写真展が写真研究会OBや友人知人とお互いの近況をリアルで確認し合う場になりました。リアルで開催でき幸運でした。

なお、初日の飾り付け、最終日の撤収作業にご夫人方のご協力をいただきました。

コロナ禍に集まることが難しく、従来のように2Lサイズ等のプリントを持ち寄り講師のアドバイスを受けることができませんでした。対応として、講師へ作品候補のデータをメールで送り、講師が仕上げた写真データとアドバイスメモを送り返す形で作品準備を進めました。従来の口頭での説明に比べ、データでアドバイスが確認でき分かりやすいと好評でした。

今後の写真研究会の活動は、コロナ第6波の状況を見ながら、3月までにリアルで総会（年間計画策定）と小写真展の開催を目指します。



紅葉の山手234番館



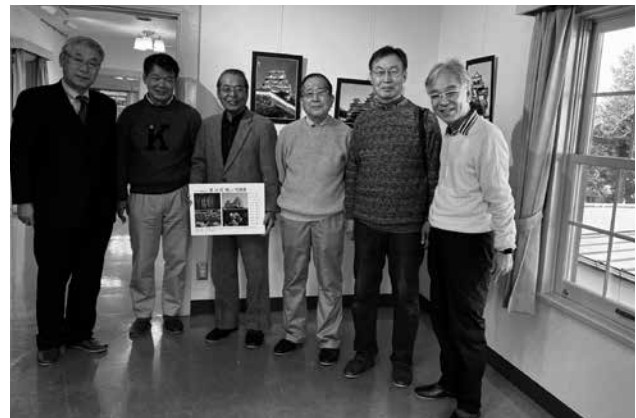
案内状



11月26日飾り付け



写真展 展示風景



11月29日撤収

関東支部50周年記念行事開催について

関東支部長 古平 篤 (25期)

日本包装管理士会・関東支部は本年（2022年）50周年を迎えました。私共支部は記念行事として、関東支部会員向けにセミナーを実施します。セミナーに先立ち関東支部会員の皆様方にアンケートをお取りしました。アンケートは22名から回答があり、その結果を参考にして、50周年記念の事前セミナーと記念セミナーを行う予定です。

事前セミナーの参加形態はコロナ禍ということもあり、「オンラインで参加したい」が41%、「オンラインとリアルどちらでも良い」が同じく41%で、「リアルで参加したい」の18%を大きく上回りました。またセミナーを行う時間帯は、「平日の午後」が72%という結果となりました。

講演内容に関しては、「包装から考えるUX（ユーザーが製品やサービスを通して得られる体験や経験について）」の票数が多く、続いて「Loop・持続可能なリユース容器を使用した循環型ショッピングプラットフォーム」と「紙・段ボールから考える包装」が同数でした。

実施計画は2月より5回の事前セミナーを、10月には記念セミナーを行う予定です。

また事前セミナーはコロナ感染防止を考えオンライ

ン（Zoom）で行います。50周年記念セミナーは、「リアルで行いたい」とのアンケート結果からリアル開催を考えておりますが、コロナ感染状況を踏まえ判断いたします。

第1回の事前セミナーは、2022年2月17日（木）13：30～15：00「明日から誰でもできる、コミュニケーションのコツ～オンライン時代に気づくこと～」のテーマで、元テレビ司会者の玉利かおるさんにご講演いただきます。第2回目は、4月22日（金）に宮城まり子さん（キャリア心理学研究所代表、日本産業カウンセリング学会名誉会長、臨床心理士）に「(仮題)人生100年時代のキャリアを考える ～これからの働き方・生き方を考え、2枚目の名刺を持つことの大切さ～」をご講演いただきます。

その後は6月には大手段ボールメーカーの研究所の方から包装・物流関係でご講演を頂き、8月、9月にも事前セミナーを予定しています。10月には50周年記念セミナーとして、LOOP JAPAN合同会社 日本代表 エリック・カワバタさん（持続可能なリユース容器を使用した循環型ショッピングプラットフォーム）の講演を行う予定です。各セミナーの詳細内容は決まり次第、皆様にご連絡いたします。

関東支部のセミナーにぜひご期待下さい。今後ともよろしくお願いいたします。

50^{KANTO} | 関東支部 50 周年記念 セミナー企画 第一回



テーマ：明日から誰でもできる、コミュニケーションのコツ
～オンライン時代に気づくこと～



日時 : 2022年2月17日(木) 13:30-15:00
セミナー形式 : オンライン (ZOOM)
セミナー講師 : 玉利かおるさん

1985 年からテレビ朝日の情報番組「やじうまワイド」の司会をされ、「tonight」司会、他各局のキャスター、NHK の FM 音楽番組「歌謡ジャーナル」を 19 年間担当されるなど、アナウンサーとして 30 年以上活躍されています。また、共立女子大学文芸学部「放送メディア概論」講師、ハリウッド美容専門学校専任講師、ハリウッド大学院大学准教授等ご活躍されています。2021 年 3 月「失敗しないオンラインでの伝え方」を出版

※詳しいセミナー内容と申込方法は、日本包装管理士会（IPP）のホームページをご覧ください。

関東支部 TOKYO PACK視察報告会を開催

関東支部長 古平 篤 (25期)

「TOKYO PACK 2021」の視察報告会を2021年8月31日13時半からZoomで行い、約30名が参加しました。自宅からZoomを使用して、セミナーを行うのは初めてであり、ネット環境を維持できるか心配しましたが、特に問題ありませんでした。パワーポイントのスライドは約160枚用意し発表しました。

報告会の内容は、前回との規模比較、コロナウイルス対策、環境に配慮した新しい素材等の説明を行い、約1時間の報告会を終了しました。



編集後記

ippニュース132号の編集を終えて感じたこと、全国のIPP活動は少しずつ活気を取り戻りつつあります。各支部ではコロナウイルス感染対策をしっかりと行ってリアルな活動も動き始めました。またJPI様との協力で行事を進めておられる支部の姿も見られました。

昨年(2021年)IPP本部では、ippニュース編集委員会を立ち上げ、会員の皆様に委員募集をしました。3名の会員よりご応募をいただき、Zoomを使って委員会を開始しました。当委員会で討議した内容は、議事メモとしてホームページに公開しています。皆様に役立つ情報もあるかもしれませんので、ホームページの記事もぜひご覧になってみてください。

全国のIPP会員の皆様、コロナ変異株の出現も気になりますが、健康に留意して2022年も一緒に頑張っていきましょう。

道明 誠 (23期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ippj.net/

■本 部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル3D 日本包装技術協会内	☎ : 052-228-2930 fax : 052-228-2980
■関西支部	〒550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯 : 090-4305-3906 (桃川) fax : 06-6606-8768
■西日本支部	〒849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西6-3-2 株式会社 サガシキ内	携帯 : 090-9876-7832

Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ						
氏 名	会 員 番 号		番	令 和	年	月 日 届
会 社	社 名					
	所 属					
	住 所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					
自 宅	住 所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					